

今月はICO9月マーケットレポートに加え、トピックス（1）として、9月19日～23日のICO会議概要報告をトピックス（2）として第117回理事会でのベトナム農業・地方開発省副大臣スピーチの全訳をお届けします。



2015/16コーヒー年度は2年連続して消費量が生産量を上回った。

9月のICOコーヒー複合指標価格は前月比5.5%上昇したが、これは主にロブスタコーヒーが先行きの供給不安から値を上げたことによるものである。今月で2015/16年度が終了するが、我々は今年度の生産見通しを148百万袋に上方修正した。世界の消費量見通しを若干下方修正し151.3百万袋としたので、世界全体の需給バランスは3.3百万袋の生産量不足となった。この修正は2016年9月の第117回ICO理事会期間中の議論に基づき、ICO統計データを見直したものだが、この後更に検討を加えた上で最終結果をお知らせする。

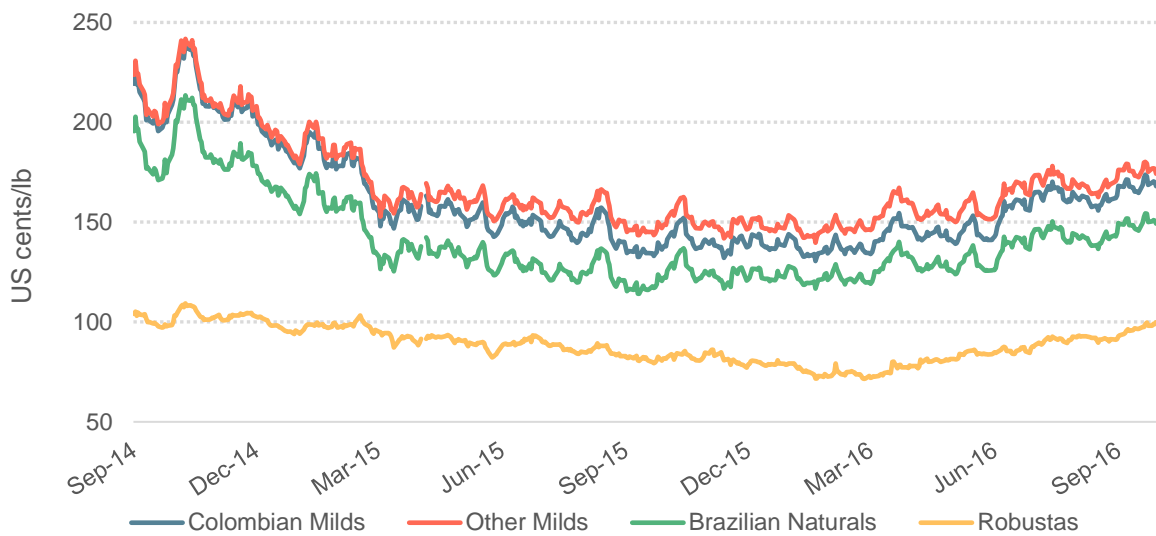
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

9月のICO日次複合指標価格は、一時141.69米セントと19か月ぶりの高値を付ける場面があったが、9月1日の136.56米セントから月末の138.69セントに緩やかな上昇となった。この結果、9月の月間平均価格は8月に比べ5.5%高い138.22米セントとなり月間平均価格としては2015年2月以来の高値となった。

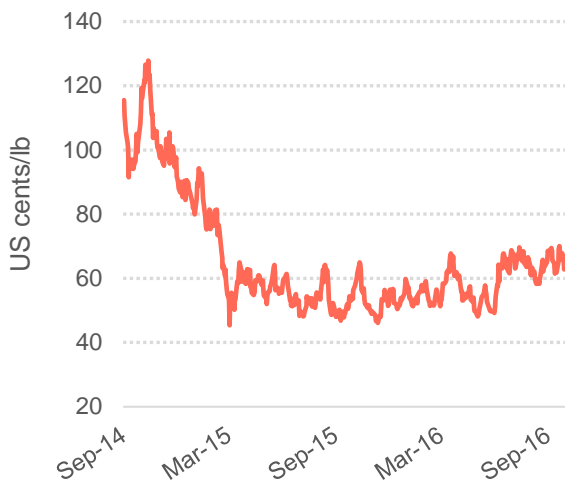
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

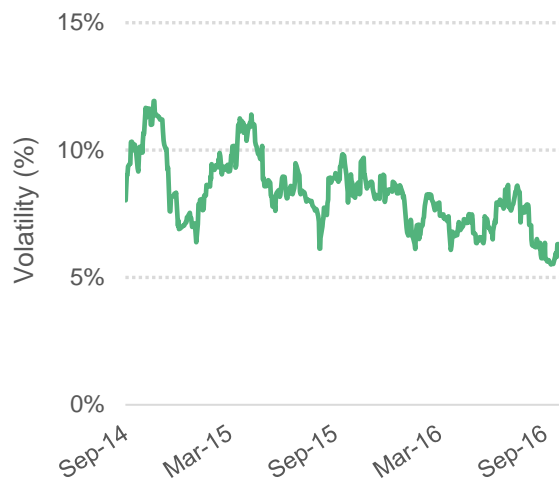
特にロブスタコーヒー価格は堅調でロブスタグループ指標価格は月初めの安値92.79米セントから月末には100セント近くまで上昇した。3アラビカグループはロブスタほどではないが、夫々のコーヒー価格が前月に比べ少なくとも5%以上値を上げた。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

8月の総輸出量は9.8百万袋となり、前年同月比9.5%増えた。コロンビアの輸出量はトラック業者のストライキが解決した為16.7%増え、ベトナムはロブスタ価格が上昇し農家が積極的に販売したことから、輸出量は推定32.3%増加した。ブラジルの輸出量は2.7百万袋となり7.4%減少したとはいうものの月間輸出量としては高い水準を維持した、またインドネシアの輸出量は前年対比28.4%減と引き続き低水準であった。

結果として、2015/16年度最初の11か月（10月～8月）の輸出量は昨年の102.8百万袋に比べ推定1%程度低い数字となり、アラビカコーヒー輸出量は3.4%増え、ロブスタは7.7%減少した。

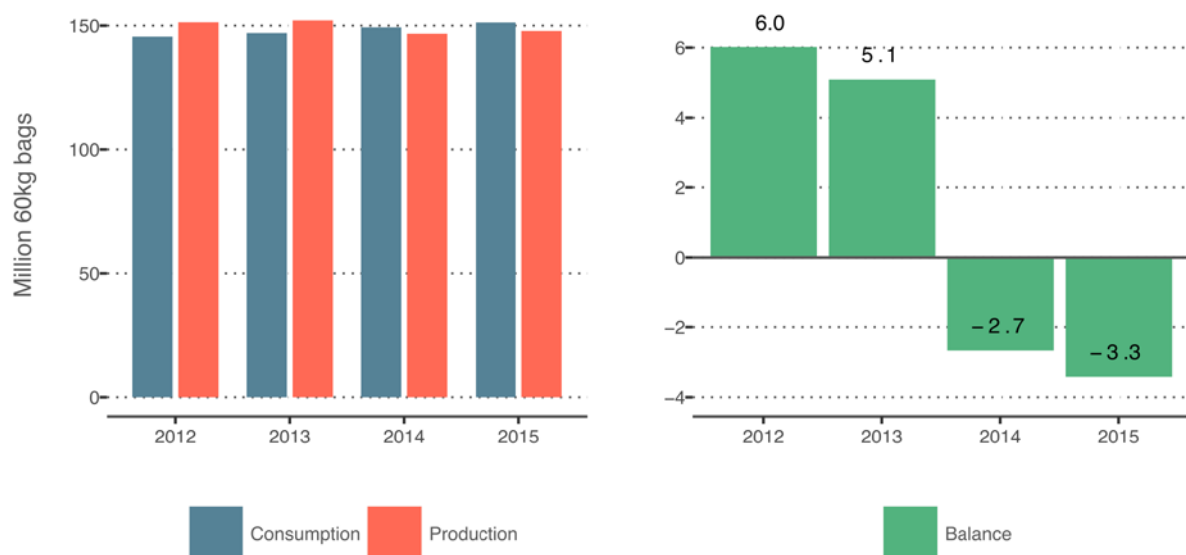
最後に、我々は過去4年間（2012/13－2015/16年度）の世界生産量、消費量を修正したので、このレポートの後の表3を参照して頂きたい。これは現在行なっているICO統計見直しの一環だが、この見直しは来年度中も継続する予定である。2015/16年度の世界生産量は2014/15年度に比し0.9%増の148百万袋に上方修正した。アラビカコーヒーが推定0.7%増の85.8百万袋、ロブスタコーヒーが1.3%増の62.2百万袋である。

ブラジルの2015/16年度の世界生産量は、2014年の干ばつの影響で特にロブスタコーヒーが減産となり、前年度対比5.3%少ない48.4百万袋の予想である。しかし、同国の2015年4月から2016年3月の輸出量は36.9百万袋の最多記録を更新したため、国内消費量を20.5百万袋とすると国内在庫は9百万袋近く減った計算である。

ベトナムの世界生産量は昨年度対比3.8%増の27.5百万袋となったが、今年初めの干ばつの影響で2016/17年度の世界生産量は減産の予想である。コロンビアは2015/16年度の収穫が終了し、生産量は14百万袋になったが、これは1992/93年度以降の最多生産量である。しかしラ・ニーニャ現象の2016/17年度生産への悪影響が懸念されている。インドネシアも2015/16年度は豊作で推定11.5百万袋となっているが、同国でも今年前半の天候不順により2016/17年度の世界生産量は2015/16年度ほどではないと予想されている。

Graph 5: World consumption, production and stock change (2012/13 - 2015/16)

The coffee market ends 2015/16 in deficit for the second consecutive year, but stocks accumulated in 2012/13 and 2013/14 have allowed the market to remain well supplied.



結果として、2015/16年度の需給バランスは2年連続しての生産量不足（消費量が生産量を3.3百万袋上回っている）の見通しである。しかし、2012/13年度と2013/14年度の世界生産量余剰期間中に積み上げられた在庫のお陰で市場への供給に問題はない。2016年6月末現在輸入国の在庫量は24.2百万袋に上っているが、これは2009年9月以降の最多水準であり、直近の供給不安には緩衝機能を果たすものと思われる。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
Nov-15	115.03	138.63	147.98	122.95	81.74	122.35	72.04
Dec-15	114.63	139.89	148.66	123.73	79.28	123.77	70.02
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
Feb-16	111.75	137.17	147.70	122.24	74.04	119.25	64.96
Mar-16	117.83	145.20	157.50	130.38	75.60	127.33	66.17
Apr-16	117.93	143.66	154.22	128.10	80.18	125.34	70.90
May-16	119.91	144.49	155.19	129.05	83.93	126.80	75.11
Jun-16	127.05	156.86	165.45	138.38	85.94	139.10	76.87
Jul-16	132.98	164.46	171.76	144.76	90.82	148.16	82.09
Aug-16	131.00	160.78	167.54	141.41	91.79	145.37	83.47
Sep-16	138.22	168.85	176.30	149.80	96.88	154.87	88.63
% change between Sep-16 and Aug-16							
	5.5%	5.0%	5.2%	5.9%	5.5%	6.5%	6.2%
Volatility (%)							
Aug-16	4.4%	5.1%	5.1%	5.7%	3.7%	6.6%	3.7%
Sep-16	4.5%	5.5%	5.1%	5.8%	3.3%	6.8%	3.6%
Variation between Sep-16 and Aug-16							
	0.1%	0.5%	0.0%	0.1%	-0.4%	0.1%	0.0%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
Nov-15	-9.35	15.68	56.89	25.03	66.24	41.21	50.31
Dec-15	-8.77	16.16	60.61	24.93	69.38	44.45	53.75
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
Feb-16	-10.53	14.93	63.13	25.46	73.66	48.20	54.29
Mar-16	-12.30	14.82	69.60	27.12	81.90	54.78	61.16
Apr-16	-10.56	15.56	63.48	26.12	74.04	47.92	54.44
May-16	-10.70	15.44	60.56	26.14	71.26	45.12	51.69
Jun-16	-8.59	18.48	70.92	27.07	79.51	52.44	62.23
Jul-16	-7.30	19.70	73.64	27.00	80.94	53.94	66.07
Aug-16	-6.76	19.37	68.99	26.13	75.75	49.62	61.90
Sep-16	-7.45	19.05	71.97	26.50	79.42	52.92	66.24
% change between Sep-16 and Aug-16							
	10.2%	-1.7%	4.3%	1.4%	4.8%	6.7%	7.0%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界のコーヒー需給バランス*

Crop year commencing	2012	2013	2014	2015	% change 2014-15
PRODUCTION	151 358	152 105	146 645	147 994	0.9%
Arabica	91 511	90 540	85 239	85 814	0.7%
Robusta	59 346	61 564	61 410	62 179	1.3%
Africa	16 673	16 205	16 005	16 831	5.2%
Asia & Oceania	42 681	45 903	44 592	47 428	6.4%
Mexico & Central America	18 773	16 856	17 284	16 739	-3.2%
South America	73 230	73 141	68 764	66 997	-2.6%
CONSUMPTION	145 367	147 017	149 395	151 303	1.3%
Exporting countries	44 350	44 209	45 374	46 369	2.2%
Importing countries	101 018	102 808	104 021	104 933	0.9%
Africa	10 447	10 571	10 704	10 815	1.0%
Asia & Oceania	28 329	28 745	30 516	31 609	3.6%
Mexico & Central America	5 135	5 198	5 239	5 257	0.4%
Europe	50 239	50 845	50 608	50 870	0.5%
North America	26 631	27 492	27 901	28 035	0.5%
South America	24 587	24 167	24 426	24 717	1.2%
BALANCE	5 997	5 093	-2 746	-3 305	20.4%

単位：千袋

* Under review

表 4: 輸出国の総輸出量

	August 2015	August 2016	% change	October - August		
				2014/15	2015/16	% change
TOTAL	8 909	9 757	9.5%	103 744	102 752	-1.0%
Arabicas	5 413	6 346	17.3%	63 183	65 327	3.4%
Colombian Milds	1 134	1 331	17.4%	12 287	12 502	1.7%
Other Milds	1 621	2 129	31.3%	20 338	21 351	5.0%
Brazilian Naturals	2 658	2 886	8.6%	30 558	31 474	3.0%
Robustas	3 496	3 410	-2.4%	40 561	37 425	-7.7%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Sep-15	Oct-15	Nov-15	Dec-15	Jan-16	Feb-16	Mar-16	Apr-16	May-16	Jun-16	Jul-16	Aug-16	Sep-16
New York	2.28	2.15	2.08	1.95	1.82	1.76	1.62	1.58	1.53	1.48	1.45	1.45	1.42
London	3.43	3.37	3.35	3.31	3.23	3.04	2.92	2.78	2.64	2.53	2.45	2.37	2.32

単位：百万袋

ー トピックス (1) ー

9月19日(月)～23日(金)の間ICO会議がロンドンで開かれましたので、会議の概要をお知らせします。今回の会議は、3月エチオピア会議で積み残され、結論を先延ばしできない議題が多くあった為か、財務委員会を含む委員会が先に開かれましたので、時系列に沿って委員会から報告します。

財務運営委員会 (FA)

揉めると予想されていた2016年9月末のシルバ事務局長の任期については土壇場でEU・ブラジル間の妥協が成立し、大した議論もなく2年半(2019年の3月末まで)の延長が決められた。ICO事務所移転先については、今の事務所に近い中心街に位置する物件(予想年間経費:25万ポンド)と郊外の物件(19万ポンド)の2候補が挙げられ、値段の安い郊外の物件に決まった。(しかし、その後事務局が家主に連絡したところ一足違いで他の借主との契約が決まったことが判明し、最終的に理事会に於いて来年3月末という時間的制約も考慮され、中心街(Gray's Inn Road)の物件に移転することが決まった。年間20万ポンド以上の経費節減になるとのことだった。)2017年初めに定年を迎える財務部長の後任候補については、公募期限の10月末を待って人選を行い2017年1月中には決定すると報告された。事務局から2015/16年度7月末までの仮予算について、予定より60千ポンド改善しているとの報告があった。会計監査については既存のSmith&Williamson社との契約を4年間延長することが決められた。

プロジェクト委員会 (PJ)

事務局からコンゴとブルンジ及びエチオピア・ルアンダを含むアフリカ4か国に於ける3案件の進捗状況について報告された。アフリカコーヒー機構(IACO)が中心となって進めているアフリカ開発銀行が支援するアフリカコーヒー機関(African Coffee Facility)設立案について報告されたが、ICOプロジェクトに於いて資金面で中心的な役割を果たしてきたコモディティー共通基金(CFC)が枯渇する中で、今後のアフリカのコーヒープロジェクトへの資金源として期待できるとの話であった。また、シルバ事務局長からは、具体的な候補先名も示された上で新たな資金源探しを始めるとの報告があった。

販売促進・市場開拓委員会 (PM)

事務局から、本年度の国際コーヒーの日のウェブサイトの紹介があり、英国スペシャルティーコーヒー協会と共同で行なう『コーヒーの日』イベントの説明があった。更に、ICOとしては今後もこのイベントに注力するつもりだとの話があった。英国スペシャルティーコーヒー協会から今年6月ダブリンで開催した『世界のコーヒー(World of Coffee)』行事について報告された。NCAから2016年度の全米需要動向調査の報告があった。

第7回ICO戦略見直し会議 (WG)

事務局から 7 月 7 日に開催された作業部会（Workshop）、9 月 7 日に開催された第 6 回 WG 会議等を経て作成された『ICO 戦略見直し案』が出され内容が承認された。即ち、ICO 戦略見直しの目的は、『世界のコーヒー産業を持続可能』にすることであり、それを実現する為に ICO の強みを生かし①更に精緻なデータを収集し、②官民の議論の場を提供し、③プロジェクトについては、資金の裏付けのあるものを集中的にフォローするというもので、要はこれまで限られた資源しか持たない ICO の活動範囲が広すぎたとの反省から、目的を再確認し活動範囲を絞ることで、各活動のパワーアップを図ろうというものである。ただ、消費国、生産国でコーヒーの消費量を増やすための活動としては、『国際コーヒーの日』に注力することが推奨されており ICO もこの活動を強化する意向である。この提案に従い、2016/17 年度中に ICO5 か年計画が作成されることになり、2016/17 年度は長期計画の繋ぎとして事務局から単年度のアクションプラン案が提出され、一部見直しの後、承認された。

統計委員会（SC）

事務局から『コーヒー生産の経済的持続可能性の評価』と題する研究レポートが提出され、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、サルバドルの 4 か国を中心とするコーヒー生産の採算性について、コーヒーは労働集約型農作物であり、生産コストに占める労働経費の割合が高く、他産業との競合から、労働経費が右肩上がりですり上がりしており、採算性が悪化しているという報告があった。サルバドルの代表が同国の詳細にわたるコーヒー Profile を紹介した。ICO 事業の一つで最近では休止していたメンバー国の紹介（Country Coffee Profile）が再開されたもので次回はカメルーン、ガーナのプロファイルが紹介される予定とのことであった。事務局は特に生産国の統計データの報告状況が悪いとして、ルールを守るよう促し、生産コストなどについてもコーヒー生産の経済性研究には欠かせない資料だとしてデータの提供を呼びかけた。

民間部門諮問委員会（PSCB）

事務局から『For the love of Coffee』をテーマに開催される今年の 10 月 1 日『国際コーヒーの日（ICD）』について、ICO ウェブサイトや英国スペシャルティーコーヒー協会とのジョイントイベントなどについての報告があった。中国コーヒー協会会長 Fu 女史及びインドネシア GAEKI 会長 Sugandhi 氏から夫々『コーヒーの日』イベントを始めたとの話があり、AJCA からフォトコンテストの簡単な紹介を行った。ISIC 広報部長 Scott 女史から国際がん研究機関（IARC）が本年 5 月、コーヒーを第 3 類（コーヒーが発癌性物質を含むと分類できない）に変更したとの報告がなされた。また欧州コーヒー連合（ECF）の Vaessen 氏からは欧州食品安全機関（EFSA）のカフェイン摂取制限指導の裏には特に問題のあるエナジードリンクが若者の肥満の原因になっていたとの背景説明があった。世界コーヒー研究所（WCR）CEO の Schilling 氏からは、遺伝子の多様性（Diversity）が少なく気候変動に対し脆弱なコーヒー（特にアラビカ種）を保護するため、国際作物多様性トラスト（Global

Crop Diversity Trust) と組んでコーヒー保存の取り組みを開始するとの話があった。2016/17 年度の議長にロシア紅茶・コーヒー協会 (Rusteacoffee association) 代表の Chanturiya 氏、副議長にはグアテマラコーヒー協会 (ANACAFE) 副会長の Keller 氏が選出された。

第 6 回コーヒー融資・諮問フォーラム

『コーヒー産業のグローバルな問題と共同責任』というテーマで 5 つのパネル (①コーヒー生産国の抱える問題、②社会・経済的な問題、③気候変動は皆で対処すべき問題、④コーヒー国際価格の問題、⑤コーヒー生産者への融資メカニズム) に別れ生産国出身者を中心とする、司会者及び 4～5 人のパネリストが参加し議論された。最初に事務局から SC 委員会でも紹介された『コーヒー生産の持続可能性の評価』について、コーヒー先進 4 生産国ですら、投下資本の償却を考慮するとコーヒーでは十分な利益が確保できていない状況だとの説明があった後、議論が開始された。多くの生産国でコーヒーはコスト割れしており、さらに気候変動が追い打ちをかけている状況であり、若者がコーヒー生産に興味を失っている為コーヒー生産を持続することは困難だとして、販売価格が生産コストを上回るような価格メカニズムは考えられないかという趣旨で議論が展開された。コロンビアの代表からは、例えば持続可能プレミアム (Sustainable Premium) などのようなものを設け、売買価格に常に一定のプレミアムを支払うことを買い手に求めることが検討できないかなどの強硬な意見も出たが、結局何も決まらず、今後も課題としてフォーラムでこの問題を取り上げるということで終わった。

第 117 回理事会

全ての委員会が終わった後で理事会が開催されたが、理事会開催日 (木) の前夜、シルバ事務局長が自宅で倒れ理事会に出席できなくなり、事務局長不在の理事会となった。Marcela 執行役 (Head of Operation) からネパールは 10 月国会において ICO 加盟が本決まりになるだろうとの報告があった。各委員会で紹介されたビデオやその他の資料が再度紹介され、各委員会での決定事項が追認された。第 119 回理事会が 2017 年 9 月 25 日～29 日、コートジボアールのアビジャンで開催されることが決まり、コートジボアール代表から同国の紹介があった。Marcela 執行役から現在 4 C/IDH/ICO 間で結んでいる Vision2020 の 3 社間合意書 (MoU) について、4 C と IDH 合併に伴い、2 社間合意契約に変更すること及び Vision2030 に名前を変更するとの報告があったが、十分な理解が得られず次回の理事会で再度説明されることとなった。インドコーヒーボード代表から突然 2020 年の第 5 回世界コーヒー会議をインドのバンガロールで開催したいとの提案があり、一部から賛成の声が上がったものの、事務局を含む参加者は前もって準備をしておらず、他にも手を挙げる生産国がある可能性も考慮され、来年 3 月の理事会で再度議論されることとなった。

中国コーヒー協会 (CCA) の民間部門諮問委員会への加入については、今回 EU から推薦状

が出なかったようで議論はされなかった（2017年9月、隔年となっている2017/18年の改選期には推薦状が提出されるものと思われる）。ただ、CCA 会長（Secretary General）の Fu 女史は非常に活発で、理事会では、①中国のデータは不備で問題多く、資料整理のために ICO に協力してほしい、②ICO 加盟を決断するのは中国政府であり、中国政府にコーヒーに興味を持たせるために ICO が中国でイベントをするなども考慮してほしいと提案した。また、今回はベトナムが、農業・地方開発副大臣の Doanh 氏を筆頭とする 13 名の大ミッションを派遣しベトナムコーヒーの現状説明を行った。ベトナムコーヒー・ココア協会（VICOFA）からも 2 名出席し、ベトナムは 12 月 10 日を『ベトナムコーヒーの日』に決めるイベントを開催するので全協の皆さんにも出席してほしいと招待状を手渡された。

最後に 2016/17 年度の ICO 理事会議長として米国の WTO・農業事項担当理事 Menchi 女史が、副議長としてコートジボアール基幹作物国際機関代表 Toure 氏が夫々選ばれた後、2016/17 年度各委員会の委員が消費・生産国グループ代表の EU 及びブラジルとから報告された。日本は財務運営委員会の委員に選ばれた。

以上

IC0 第 117 回理事会初日の 9 月 22 日（木）ベトナム農業・地方開発省副大臣 Le Quoc Doanh 氏が読み上げた声明文の全訳を紹介します。

ベトナムコーヒー産業の持続可能な発展

1975 年以降、ベトナムコーヒー産業は作付面積・生産性・生産数量に於いて著しい伸びを示した。ロブスタコーヒーは中央高原地域で、アラビカコーヒーは北西地域に於いて主に栽培されている。これらをベースに、国内消費や輸出用に様々なコーヒー産業が形づくられてきた。2000 年、ベトナムは世界第 2 位のコーヒー生産国・輸出国になり、ロブスタコーヒーの生産国としては世界最大となった。これまでに我々は次のようなことを達成した。

商業用コーヒー生産の驚異的な成長率（年率）

ベトナムコーヒーの作付面積は、1961 年に 21.2 千ヘクタールだったものが、2015 年には 645 千ヘクタールに著しく増加した（30 倍の成長である）。このことが近年のコーヒー生産量及び輸出量の成長に大きく寄与した。

コーヒー生産に適した中央高原の土質・気候、新品種の移植、農家の栽培方法改善などのお陰で、ベトナムコーヒーの生産性は急速に改善した。1961 年～1986 年には、ベトナムコーヒーの生産性は世界の平均的生产性を下回っていたが、長年かかって世界の水準に追いつくことが出来た。2015 年、ヘクタール当たりの生産性は 2.42MT であり、世界の平均生産性の 3 倍になった。生産性が向上したお陰で世界の他のロブスタコーヒー生産国に比しベトナムコーヒー産業の競争力は著しく強化された。ベトナムはコーヒー年間生産量の 95% 以上を、世界の 80 か国に輸出しており、ブラジルに次ぐコーヒー輸出国になった。

輸出用コーヒー生豆の品質が改善した

ロブスタコーヒーは主に日中と夜間の気温差が著しい 500～600 メートルの高原で生産されている。このお陰でベトナムコーヒーには中性的（neutral）で特徴ある（distinctive）味が備っている。これが我々のコーヒーが他の産地のものよりおいしいと言われる所以である。

改良品種が採用され、グローバル GAP（Global Good Agriculture Practice）基準の農業規範が広まったお陰で、2015 年には 200 千ヘクタール近い作付面積の、約 600 千トンのコーヒー生豆がグローバル GAP 認証された。

輸出用コーヒーの品質を向上させるために、加工施設や貯蔵システムは高機能技術を備えたものに改良された。

加工が進んだ（焙煎豆、インスタントコーヒーを含む）、付加価値の高いコーヒー製品の割合は増加している。Vinacafe 社、 Trung Nguyen 社、 An Thai 社などのコーヒー製品はマーケットアクセスが増えたお陰で、世界の販売業者（international distributor）に受け入れられた。

雇用機会が増え、社会経済環境は改善している

コーヒーの年間輸出金額が 32 億米ドルになったお陰で、コーヒー産業はより多くの雇用機会を生み出し、600 千人近いコーヒー農民に安定した収入を供与しており、中央高原地域、西東部地域、及びその他のコーヒー生産地において社会・経済環境はよくなり貧困が少なくなった。コーヒー生産に特化された地域では、地域の経済環境はよくなり農民の生活は明らかに改善されている。

これほど際立った成果を上げているにも関わらず、ベトナムコーヒー産業は未だ次のような多くの問題を抱えている。即ち：

コーヒー産業の成長率は不安定で持続可能とは言えない。これらの問題には、極端な気候条件発生リスクが高いこと、気候変動、国際価格の乱高下などが含まれている。5～10 年後には、140 千～160 千ヘクタールのコーヒー作付面積が、生産コストがかかり競争力のない老木農園になるだろう。地方のコーヒー生産とビジネスとの間には様々な制約が発生してきているので、生産と集荷、加工、貯蔵、消費までのコーヒーバリューチェーンの異なった分野間での繋がりをより強化する必要がある。

しかし一方で我々は、ベトナムコーヒー産業を持続可能にし、品質を改善し、競争力を強化し、製品の付加価値を上げ、コーヒー農家や企業の収入を増やすために、既にいくつかの対策を試みている。即ち：

—2020 年までに全国でコーヒー作付面積を 600 千ヘクタールに維持するとともに、その内 530 千ヘクタールを四つの中央高原に位置する州に集約し、効率的で持続可能なコーヒー生産を行うためのマスター計画を見直している。

—2020 年までに全国で 120 千ヘクタールを目標に高生産性と高品質の備わったコーヒー改良品種への植え替えを行っている。

—自然環境保護の為、安定的水供給システムを備え、シェードツリーを植え、コーヒー収穫間では他作物を栽培できる永久的灌漑施設を作るなどして、商業用コーヒー生産地域の灌漑システムを改善する。

- 持続可能なコーヒー生産を目指し先進技術を活用する。持続可能なコーヒー生産規範 (practice) を農民に教える、コーヒー生産地域に従った地理的表示 (GIs) を普及させる、気候変動に抵抗力があり、生産性が高く、高品質の新品種に植え替える。
- コーヒー生豆の乾燥及び精製システムを改良する。品質を向上させる為、生豆の初期加工段階及びロブスタコーヒーの水洗加工段階での農民間の協力を促す。
- 時代遅れの技術や生産ラインを新しいものに置き換える、ISO9000、ISO14000、HACCP などを導入する。
- コーヒー生豆の品質を向上させベトナムコーヒーのブランドを高める。
- 貿易を促進する。ビジネス環境、販売チャネル、価格などについての情報システムを改善し、国内・海外市場でのコーヒー売上の電子商取引を積極的に活用する。
- ベトナムコーヒー生産者連合設立準備のために各地域に於ける生産者グループの組織化を促進する。
- ベトナムコーヒー調整委員会 (Coordination Board) の機能を強化する。国内コーヒー産業の競争力を向上させる為、国営企業を再編 (restructure) する。コーヒー種子生産、灌漑設備開発、コーヒー精製加工システムなどの分野で官民提携 (public-private partnership) を模索する。
- 特にコーヒー種子選別、疫病管理、水の有効利用、収穫、貯蔵、加工技術などの科学及び技術分野に於いて他国・国際機関との協力を強化する。ベトナムコーヒー製品を世界に広めるために国際展示会や貿易イベントに参加する。

以上